

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ新かんべ 東ユニット		
所在地	一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2392200370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2392200370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年2月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ渦の中でもグループホームらしく運営することを第1に考えています。洗濯もスタッフと一緒にしています。天気のいい日は外に干します。食事もキッチンでスタッフと一緒に作ります。時々テイクアウトして食事を楽しんでいます。犬の散歩や近所への散歩などにも出かけています。スタッフは利用者様と家族のように接しています。人生の大先輩として敬語を使うことはもちろんですが時には子供や孫のような気持ちで心配したり笑ったりしています。1日1日を大切に過ごして頂けるようサポートするのがスタッフの仕事だと思っています。現在の入居者様に夜の徘徊がないのも自慢です。昼にしっかり活動し、しっかりとサポートしているからこそだと思います。待機者も常に10名以上います。セラピードッグのぼぼとの触れ合いも好評です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【今年度はコロナ禍の為、訪問調査を自粛し、電話ヒアリングで評価を実施した】  
 コロナ禍で、ホームとしてやるべき事の半分しかできていないという意識を全職員が共有し、中でも、できる限りの「やれること」を支援している。利用者とのコミュニケーションを一番に考え、「心」がつかえる支援を目指している。  
 コロナ禍の自粛で、地域への外出や交流は難しい状況が続いているが、町内会の方が様子を見に立ち寄ってくれたり、戸外で外気浴をすれば近隣の方が声をかけてくれたりと、これまでのホームの取組みが実を結び、孤立しない環境を維持できている。利用者の普通の日常を支援する、認知症ケアに対する意識が高く、利用者・家族満足が高いことが頷ける。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームという施設の理解をスタッフ同士で常日頃から話し合いをしている。また会社の理念である「たんぼぼの行動規範」を読み合わせしている。	法人理念に基づいた「たんぼぼ行動規範」を基本に、日常的に支援内容の振り返りを行っている。年2回、マイスター制度の取り組みの中で、行動規範に基づく支援提供であるかの検証を行う機会もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し行事への参加をしている。コロナ禍のため行事も少ないが、町民運動会、老人会などの参加をしている。	コロナ禍で、レクリエーションボランティアの受け入れは自粛し、地域行事や地域交流も難しい状況が続いている。町内会の方が立ち寄ってくれたり、近隣の方が声をかけてくれたりのお付き合いの継続はある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回認知所カフェを開催し、音楽療法や認知症予防体操などを行っている。また、地域の認知症予防セミナーの講師や介護者同士の交流会にアドバイザーとして参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い民生委員や市役所の方、また利用者のご家族様との交流を意見やご要望などを聞いている。	コロナ禍で、この1年は6回全てを書面開催にしている。ホームの運営報告を基に議事録を作成し、メンバーにFAXで報告、意見や提案を募っている。行政に対しても、毎回FAXで報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一宮市役所の方へ相談や分からない事は電話で問い合わせをしている。	市の担当部署とは、運営に関する報告・相談を通じ、適切に連携している。地域包括支援センターとも密に連携を図り、地域包括支援センター主催の介護教室に参加し、アドバイザーとして認知症の話をしている。その他、web研修にも積極的に参加し、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を玄関先に掲げている。また、身体拘束をしない為の指針を掲示している。	委員会を設置し、毎月委員会を開催している。事例検討、拘束をしない工夫等を話し合い、内容はフロアミーティングで全職員に周知を図っている。身体拘束排除に対するホームの意識は高く、職員もこれをよく理解し、適切な支援につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回の身体拘束・虐待防止委員会の議事録をフロアミーティング時に情報共有している。3ヶ月に1回チェックリストを行い普段のケアの見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	半年に1度の職員研修にて全スタッフが学んでいる。また、施設内でも成年後見人を立てている利用者様もいらっしゃるのでスタッフの理解はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様にはなかなか伝わらない為、ご家族様には丁寧に説明をしている。また契約までの間にも何度か連絡を取り合い不安を少しでも低減出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様向けのアンケートを実施し意見や要望を集め集計結果をご家族様、ケアマネ様、ご利用者様向けに発行している季刊誌に掲載している。	毎年満足度アンケートを実施し、忌憚のない意見や要望の聞き取りに努めている。内容をそのまま放置せず、職員協議の上で運営や支援内容に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1日に代表者が施設訪問され職員との交流に努めている。また管理者も現場にヘルプで入り職員との交流を常日頃から行い運営に反映している。	管理者は常に風通しの良い職場環境づくりに配慮している。言いたい事の言い合える、わだかまりのない環境で、意見交換ができるように努めている。毎月のフロアミーティング、ケアカンファレンス等、職員が意見を表出できる機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回昇給があり管理者が数名推薦している。また勤務日数増やしたい職員には労働契約の更新を行い収入アップをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修を行い、半年後にフォローアップ&エール研修を行いスキルアップを目指している。また全職員に対し年に2回の職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員にオンラインでの研修や講義に積極的に参加してもらっている。相互訪問などはコロナの為無しにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談にてご本人様にご要望を聞く時間を設けている。また入居してからも家族様との面会も自由に行っておりその際には不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やご来所頂いた際に、施設で出来ることを説明するほか、不安な事や困りごとなど伺い安心して施設生活を過ごして頂くようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話やご来所頂いた際に、施設で出来ることを説明するほか、不安な事や困りごとなど伺い安心して施設生活を過ごして頂くようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添い、今までの生活をできるだけ変えないよう入浴の時間、起床時間など職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちも察しつつ、ご本人の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で生活をしていけるように努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人様に確認を取った上でご友人などの来所も歓迎している。また来所された際はご家族様に報告している。また去年は緊急事態宣言中はできなかったが馴染みのある近所のスーパーや喫茶店などへも出かけている。	コロナ禍の面会自粛、外出自粛により、以前のような支援は困難な状況にある。その中でもできることを考え、電話の取次ぎや、預り金を持ってきてもらう際等で来訪時には、遠くからでも顔を見れるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様複数でひとつの作品作りをしたり、一緒に犬の散歩へ出かけたり、スタッフが間に入り回想法などで話を盛り上げるなどできるだけ一人の時間を作らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にいつでも施設へ遊びに来てくださるよう伝える。また来所された時は現状をお聞きし相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人との関わり方から、又、ご家族様からのお話から、ご本人の意向の把握に努めている。	利用者との日常の関わりの中で、会話の中や様子から、本人の意向や希望を把握している。毎月のフロアミーティングで職員意見の集約を図り、情報を共有し、利用者の意向重視の支援内容を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談だけでなく、入所後もご家族・ご友人などから生活歴を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人との関わり方から、又、ご家族様からのお話から、ご本人の意向の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	簡易評価表を作り毎月担当スタッフが評価している。それをプランにも反映している。また担当者会議でもご本人、ご家族様、スタッフ各々の意見を聞いている。	毎月のモニタリングを実施し、支援内容と利用者の状態を検証している。基本的に短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月の介護計画を作成し、6ヶ月毎に更新を行っている。本人の意向を重視し、家族意見、職員意見を併せて、支援内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別に記録し、各職員でフロアミーティングや申し送りノートにて情報共有し、ケアプランに反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の気持ちに寄り添い、ちょっとした希望でも聞き逃さずニーズとして捉え柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護拒否の強くなった方への心療内科の受診や後見人成年制度など利用者様に必要だと思われる資源を把握しご家族様やご本人様にご提案する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を希望される方については、希望に応じた支援をしている。又、GHに協力医があり、定期的な往診の他、適宜連絡し指示を仰げる体制を確保している。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。以前からのかかりつけ医の受診も可能で、希望に沿って対応している。ホーム協力医以外の受診は、原則家族対応をお願いし、家族と連携して情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在も、看護師の配置はできていない。介護スタッフ同士でしっかりと情報共有し、受診のタイミングや処置の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至る経緯や、最近のご様子、既往歴、内服薬等について出来る限り伝達し、入院後も定期的に面会に行くなど情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した際の確認書を記入して頂いている。介護度が上がった場合など細かにご家族様と話し合っている。現在も看取りケアは行う予定はないが医療行為のない限りはここでの生活提案している。	入居契約時にホームの方針を説明し、同意を得ている。本人と家族の意向に沿った、ホームのできる限りの支援提供を基本に、本人にとっての最善の支援内容を話し合っている。医療が必要となった場合等、ホームでの対応が難しくなった場合は、医療機関や他施設移行を含め移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回防災訓練を行い、その中で急変時の対応について学ぶ時間を設け、救急搬送を想定し、見やすいところに救急対応方法を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練により、心肺蘇生法やADLの使用法について学ぶ時間を設けている。また、平日頃の散歩や通勤などでも危険箇所を確認している。	利用者参加の自主避難訓練を毎月実施し、防災の意識を高めている。年2回の防災訓練には消防署に依頼し、消防署立ち合いで避難経路の確認や避難方法などを確認している(今年度はコロナ禍で自粛)。備品・飲食料の備蓄も万全に整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者様の人格を尊重し、言葉使いに気を付け、訪室時、トイレ誘導にノックするなどプライバシーに努めている。	認知症の理解を推進し、利用者一人ひとりに対する適切な対応方法を話し合っている。日常支援の中で、職員同士が注意し合い、不適切を無くすように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立ていけるように配慮し、できる限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、お一人お一人のペースや生活習慣・その日の想いを大切にしていける様努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみができるように、ご家族様にもご協力を仰ぎ支援している。衣類等の購入には、できる限りご本人様と一緒に出かけ購入するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりから、嗜好や希望を踏まえた料理を提供している。食事作り、片付けと一緒に出来ている。緊急事態宣言中は外食を避けテイクアウトや職員が買いに行き召し上がって頂いている。	朝食と夕食は手作りの料理を提供し、活動時間中の昼食は、湯せん食を活用している。盛り付けや配膳は利用者の手伝いもあり、役割発揮の場面となっている。季節の行事食、外食の代わりにテイクアウトなど、食の楽しみにも応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの栄養やバランスを考慮し、各ご利用者様の食事摂取量を記録し、把握に努めている。又、嚥下・咀嚼能力も考慮した食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様に合わせた支援方法で、口腔ケアの支援を行っている。又、提供歯科に協力を仰ぎ口腔ケアの援助へのアドバイスを受けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄記録表にて記録・把握しケアに活かせるよう努めている。できる限り、トイレでの排泄ができるよう居室にナースコールを設置するなどし対応している。	トイレでの排泄を基本に支援している。利用者一人ひとりの状態や状況に応じた、適切な支援方法を話し合っている。自立の利用者も多く、特に声掛けや見守り、確認等、利用者のプライバシーと尊厳に配慮した対応を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日個々に把握した上で毎日夕方からの体操の時間の参加、十分な睡眠、1日850CC以上の水分摂取、ヤクルト、牛乳など乳製品の飲用で便秘予防に取り組んでいる。それでも難しい場合は薬の服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきに入浴をしているが、できる限りお一人お一人のニーズに合わせて柔軟な対応をしている。又、時間帯についても出来る限り希望に添えるよう対応している。	毎日の入浴を提供し、1日4～5人の入浴を支援している。清潔保持の観点から、隔日に入浴できるように入浴管理を行っている。個浴を基本として、職員とのコミュニケーションを楽しみにしている利用者も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、エアコンの温度調整や冬場の加湿など快適に過ごせるよう環境整備に努めている。ご利用者様のその日の体調を考慮して休息を促したり、フロア内のソファの活用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルリングし職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服に変更があった際は申し送りノート・処方箋ファイルなどの確認と更に口頭でも伝えるようにしている。又、水溶きなどでむせこみに注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをして頂き、職員みなでお礼を言い達成感を味わってもらう。塗り絵や貼り絵や編み物、書道などその方の得意なことをして頂く。毎食時ご自分の好きな嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の利用者様との会話からできるだけ聞き取っている。またできるだけ早くご希望に添えるよう職員も臨機応変に業務を行っている。ご家族様にも昔好きだった場所などを聞き取りしている。	コロナ禍の自粛で、以前のような外出支援が難しい状況が続いている。コロナの状況に合わせて、外出先と外出方法を工夫し、利用者の気晴らしや気分転換に配慮している。近隣の散歩、玄関外での日光浴等、宣言中でも外気に触れる機会を維持している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、ご自身で金銭の自己管理をして頂いているが現在の利用者様にはいらっしやらない。金銭管理が難しい場合でも、お金を使うことが途絶えないよう預かり方法を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちで会話を楽しんでいる利用者様もいらっしやる。また施設の電話に関してはご家族様との関係性にも配慮しつつある程度いつでも自由にかけて頂けるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて装飾を施している。又、行事に参加した際の写真やお出かけした時の写真を展示するなど居心地の良い空間が作れるように工夫している。	今年度は訪問調査を電話ヒアリングに代えて外部評価を実施した為、視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮して上で、気の合う方との交流ができるようにしている。又、席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご自宅の延長線上に存在出来るよう、できる限り使い慣れた物の設置を依頼している。ご本人にとって馴染みの物の重要性をご家族お伝えして協力を依頼している。	今年度は訪問調査を電話ヒアリングに代えて外部評価を実施した為、視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として、必要な箇所には手すりなどを設置している。ご自分で出来ることは見守り程度にし時間がかかってもご自分でやって頂いている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ新かんべ 西ユニット		
所在地	一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNo=2392200370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNo=2392200370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ渦の中でもグループホームらしく運営することを第1に考えています。洗濯もスタッフと一緒にいきます。天気のいい日は外に干します。食事キッチンでスタッフと一緒に作ります。時々テイクアウトして食事を楽しんでいます。犬の散歩や近所への散歩などにも出かけています。スタッフは利用者様と家族のように接しています。人生の大先輩として敬語を使うことはもちろんですが時には子供や孫のような気持ちで心配したり笑ったりしています。1日1日を大切に過ごして頂けるようサポートするのがスタッフの仕事だと思っています。現在の入居者様に夜の徘徊がないのも自慢です。昼にしっかり活動し、しっかりとサポートしているからこそだと思います。待機者も常に10名以上います。セラピードッグのぼぼとの触れ合いも好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームという施設の理解をスタッフ同士で常日頃から話し合いをしている。また会社の理念である「たんぼぼの行動規範」を読み合わせしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し行事への参加をしている。コロナ禍のため行事も少ないが、町民運動会、老人会などの参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回認知所カフェを開催し、音楽療法や認知症予防体操などを行っている。また、地域の認知症予防セミナーの講師や介護者同士の交流会にアドバイザーとして参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い民生委員や市役所の方、また利用者のご家族様との交流をし意見やご要望などを聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一宮市役所の方へ相談や分からない事は電話で問い合わせをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を玄関先に掲げている。また、身体拘束をしない為の指針を掲示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回の身体拘束・虐待防止委員会の議事録をフロアミーティング時に情報共有している。3ヶ月に1回チェックリストを行い普段のケアの見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	半年に1度の職員研修にて全スタッフが学んでいる。また、施設内でも成年後見人を立てている利用者様もいらっしゃるのでスタッフの理解はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様にはなかなか伝わらない為、ご家族様には丁寧に説明をしている。また契約までの間にも何度か連絡を取り合い不安を少しでも低減出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様向けのアンケートを実施し意見や要望を集め集計結果をご家族様、ケアマネ様、ご利用者様向けに発行している季刊誌に掲載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1日に代表者が施設訪問され職員との交流に努めている。また管理者も現場にヘルプで入り職員との交流を常日頃から行い運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回昇給があり管理者が数名推薦している。また勤務日数増やしたい職員には労働契約の更新を行い収入アップをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修を行い、半年後にフォローアップ&エール研修を行いスキルアップを目指している。また全職員に対し年に2回の職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員にオンラインでの研修や講義に積極的に参加してもらっている。相互訪問などはコロナの為無しにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談にてご本人様にご要望を聞く時間を設けている。また入居してからも家族様との面会も自由に行っておりその際には不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やご来所頂いた際に、施設で出来ることを説明するほか、不安な事や困りごとなど伺い安心して施設生活を過ごして頂くようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話やご来所頂いた際に、施設で出来ることを説明するほか、不安な事や困りごとなど伺い安心して施設生活を過ごして頂くようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添い、今までの生活をできるだけ変えないよう入浴の時間、起床時間など職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちも察しつつ、ご本人の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で生活をしていけるように努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人様に確認を取った上でご友人などの来所も歓迎している。また来所された際はご家族様に報告している。また昨年は緊急事態宣言中はできなかったが馴染みのある近所のスーパーや喫茶店などへも出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様複数でひとつの作品作りをしたり、一緒に犬の散歩へ出かけたり、スタッフが間に入り回想法などで話を盛り上げるなどできるだけ一人の時間を作らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にいつでも施設へ遊びに来てくださるよう伝える。また来所された時は現状をお聞きし相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人との関わり方から、又、ご家族様からのお話から、ご本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談だけでなく、入所後もご家族・ご友人などから生活歴を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人との関わり方から、又、ご家族様からのお話から、ご本人の意向の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	簡易評価表を作り毎月担当スタッフが評価している。それをプランにも反映している。また担当者会議でもご本人、ご家族様、スタッフ各々の意見を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別に記録し、各職員でフロアミーティングや申し送りノートにて情報共有し、ケアプランに反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の気持ちに寄り添い、ちょっとした希望でも聞き逃さずニーズとして捉え柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護拒否の強くなった方への心療内科の受診や後見人成年制度など利用者様に必要だと思われる資源を把握しご家族様やご本人様にご提案する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を希望される方については、希望に応じた支援をしている。又、GHに協力医があり、定期的な往診の他、適宜連絡し指示を仰げる体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在も、看護師の配置はできていない。介護スタッフ同士でしっかりと情報共有し、受診のタイミングや処置の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至る経緯や、最近のご様子、既往歴、内服薬等について出来る限り伝達し、入院後も定期的に面会に行くなど情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した際の確認書を記入して頂いている。介護度が上がった場合など細かにご家族様と話し合っている。現在も看取りケアは行う予定はないが医療行為のない限りはここでの生活提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回防災訓練を行い、その中で急変時の対応について学ぶ時間を設け、救急搬送を想定し、見やすいところに救急対応方法を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練により、心肺蘇生法やADLの使用方法について学ぶ時間を設けている。また、平日頃の散歩や通勤などでも危険個所を確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者様の人格を尊重し、言葉使いに気を付け、訪室時、トイレ誘導にノックするなどプライバシーに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立ていけるように配慮し、できる限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、お一人お一人のペースや生活習慣・その日の想いを大切にしていける様努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみができるように、ご家族様にもご協力を仰ぎ支援している。衣類等の購入には、できる限りご本人様と一緒に出かけ購入するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりから、嗜好や希望を踏まえた料理を提供している。食事作り、片付けを一緒に出来ている。緊急事態宣言中は外食を避けテイクアウトや職員が買いに行き召し上がって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの栄養やバランスを考慮し、各ご利用者様の食事摂取量を記録し、把握に努めている。又、嚥下・咀嚼能力も考慮した食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様に合わせた支援方法で、口腔ケアの支援を行っている。又、提供歯科に協力を仰ぎ口腔ケアの援助へのアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄記録表にて記録・把握しケアに活かせるよう努めている。できる限り、トイレでの排泄ができるよう居室にナースコールを設置するなどし対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日個々に把握した上で毎日夕方からの体操の時間の参加、十分な睡眠、1日850CC以上の水分摂取、ヤクルト、牛乳など乳製品の飲用で便秘予防に取り組んでいる。それでも難しい場合は薬の服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきに入浴をしているが、できる限りお一人お一人のニーズに合わせて柔軟な対応をしている。又、時間帯についても出来る限り希望に添えるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、エアコンの温度調整や冬場の加湿など快適に過ごせるよう環境整備に努めている。ご利用者様のその日の体調を考慮して休息を促したり、フロア内のソファの活用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルリングし職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服に変更があった際は申し送りノート・処方箋ファイルなどの確認と更に口頭でも伝えるようにしている。又、水溶きなどでむせこみに注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをして頂き、職員みなでお礼を言い達成感を味わってもら。塗り絵や貼り絵や編み物、書道などその方の得意なことをして頂く。毎食時ご自分の好きな嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の利用者様との会話からできるだけ聞き取っている。またできるだけ早くご希望に添えるよう職員も臨機応変に業務を行っている。ご家族様にも昔好きだった場所などを聞き取りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、ご自身で金銭の自己管理をして頂いているが現在の利用者様にはいらっしやらない。金銭管理が難しい場合でも、お金を使うことが途絶えないよう預かり方法を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちで会話を楽しんでいる利用者様もいらっしやる。また施設の電話に関してはご家族様との関係性にも配慮しつつある程度いつでも自由にかけて頂けるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて装飾を施している。又、行事に参加した際の写真やお出かけした時の写真を展示するなど居心地の良い空間が作れるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮して上で、気の合う方との交流ができるようにしている。又、席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご自宅の延長線上に存在出来るよう、できる限り使い慣れた物の設置を依頼している。ご本人にとって馴染みの物の重要性をご家族お伝えして協力を依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として、必要な箇所には手すりなどを設置している。ご自分で出来ることは見守り程度にし時間がかかってもご自分でやって頂いている。		